



# 大学院医学系研究科

医学専攻

先進的医科学専攻

看護学専攻

自己点検書

2024年12月

# 目 次

## I. 大学院医学系研究科概説

1 研究科概説	1
---------	---

## II. 研究科概要

1 設置目的	3
--------	---

2 沿革	4
------	---

3 機構図	7
-------	---

4 現況	8
------	---

## III. 領域ごとの自己点検評価

1 医学専攻	9
--------	---

2 先進的医科学専攻	15
------------	----

3 看護学専攻	25
---------	----

# I 大学院医学系研究科概説

## 1. 研究科概説

山形大学の医学系研究科は、医学部の設置から6年後の昭和54年（1979年）に医学研究科として開設された。それから45年、指導教員一丸となって、「医学・看護領域の最先端の知識・技術を学び、また、自らが課題を解決する能力を身に付け、高度な研究・判断能力を有した研究者や指導者および高度職業人の養成」に努めている。さらに、学際的な新しい学問分野の開拓や医療行政への参画を目指す学生にも門戸を開いている。

### （看護学専攻の設置）

平成9年（1997年）、医学研究科は、研究科内に看護学専攻（修士課程）を設置し、同時に医学系研究科と改名した。看護学専攻には、平成19年（2007年）に国立大学法人として全国6番目となる“看護学の博士号”が取得できる博士後期課程も設置され、これまで多くの博士（看護学）を輩出している。現在は、小児看護専門看護師（Certified Nurse Specialist: CNS）教育課程や、老人看護 CNS 教育課程、在宅看護 CNS 教育課程、ナースプラクティショナー教育課程、感染看護 CNS 教育課程、診療看護師（Nurse Practitioner: NP）教育課程の認定を受けるなど教育課程も充実し、看護学専攻の教育理念・教育目標の達成に向け、継続的に取り組んでいる。

### （生命環境医科学専攻の設置と先進的医科学専攻への改組）

平成16年（2004年）、新たに独立専攻として生命環境医科学専攻が設置された。本専攻は、「我が国が未曾有の高齢化社会を迎え、勤労人口の減少、高齢者の福祉及び医療の経済的負担の増大と財源の縮小など、全ての社会活動がこの状況に規定されつつある中、生命と環境の関わりを理解し、社会構造の変化に医療・行政・福祉の立場から柔軟に対応して、健康で豊かな生活を可能にする戦略を探求すること」を目標に設置した。この目標達成のため、総合大学である本学の特長を生かして、医療分野に限定することなく、人文社会科学、工学、福祉など様々な分野の研究者が集まり、究極的に学際的な教育・研究組織を構築した。この生命環境医科学専攻が、平成29年（2017年）、先進的医科学専攻に発展的に改組され、現在に至る。

### （現在の医学系研究科）

現在の医学系研究科においても大学院開設当時の目標を忘れることなく、医学専攻及び看護学専攻では、医学又は看護学を広く修め、専門領域における高度の研究能力と、豊かな学識及び高い倫理観を備えた医療人を育成するとともに、広く各方面において、将来の指導的役割を果たす人材の育成を行なっている。また、先進的医科学専攻は、現代社会が直面する、高齢化の進展に伴って増加するがんをはじめとする疾患や医療の諸課題に対し

て、医療・行政・福祉の立場から柔軟に対応でき、健康で豊かな社会の実現を目指してトランスレーショナルリサーチを推進できる人材育成を目指している。

#### (大学院教育実質化への取組み)

生命環境医科学専攻の開設は、同時に医学系研究科にとって大きな変革のきっかけとなった。それは、大学院教育実質化への取組みである。中央教育審議会は、平成17年(2005年)に「新時代の大学院教育」をまとめ、学生に対する体系的な教育を提供する場として、大学に“教育の課程を修了した者に特定の学位を与える課程制大学院制度の趣旨に沿った教育の組織的展開の強化”、すなわち大学院教育の実質化を求めた。

更に、この答申に基づき、文部科学省は、各大学に対して、“研究科・専攻ごとの人材養成目的等の公表、成績評価基準の明示等”を課す大学院設置基準の改正を行った。

山形大学に於いても大学院教育の実質化は、対応すべき喫緊の課題として位置付けられ、山形大学中期計画(平成16年)に、大学院の教育研究等の質の向上を達成するためにとるべき措置として、「ホームページ等を介した大学院の情報公開、高度職業人養成に必要な実践的・実務的科目の開講と社会人の再教育・キャリアアップへの取組、TA・RAの活用、課程修了者の評価とその教育改善へのフィードバック、各研究科間の教育交流」などが盛り込まれた。

山形大学大学院医学系研究科は、生命環境医科学専攻の設置を機会に、魅力ある大学院教育を提供するため、以下のような取組を行った。

医療系大学院は、本来、社会から、幅広い教養に裏付けられた総合的判断力を持つ見識ある研究者、高度の専門技術と臨床研究遂行能力を有する専門医(医学博士)を養成することを期待されている。しかしながら、当時、現実には、大学院としての体系的な教育プログラムは機能しておらず、大学院生は、自身が専門とする研究室で、学位申請のためだけの研究を行っているにすぎなかった。その結果、例えば、がんの研究で学位を得た者が、「がん細胞については詳しいが、がんの治療に関する知識が全くない」ということが起きており、先に述べた「医療系大学院への社会の期待」は、裏切られた形となっていた。このような状況の下、医学系研究科は、「自分自身の研究テーマ以外にも、自分の専門とする分野に関して幅広い教養を持ち、将来その方面の真のリーダーとなるべき研究者・専門医」の養成を目的とした場を整備した。具体的には、医学専攻の大学院教育を、山形大学が得意とし、多くのリソースを持つテーマである“がん”を教育の柱とし、先に述べたように人文、医、工学の融合型大学院である生命環境医科学専攻の医工学(機能再生)、分子疫学、社会環境予防医学の3つの部門との有機的連携をはかり、相互の単位選択の自由度を確保するほか、教育・研究指導体制が硬直化することのないように、指導教官も、相互に携わることができるようにした。また、従来、生命環境医科学専攻において必修となっていた、基礎的研究ストラテジー修得コースを充実させ、主として研究遂行や将来の職業上必要な、動物実験技術士、放射線業務従事者資格、生物工学部門技術士補、バイオ技術認定資格などの資格取得のための教育内容を盛り込んだ。さらに、生命環境医科学専攻修

士課程及び修士課程卒業者に対しては、将来、医学への貢献度の高い研究を推進する能力を養うため、コースワークの中で臨床医学や生理学を必修とした。更に、大学院設置基準第14条の特例\*や、長期履修学生制度\*\*、e-learningを積極的に活用し、スクーリングに制限のある社会人大学院生にも、幅広い内容の講義を提供することを可能とした。この取り組みは、生命環境医科学が先進的医科学専攻に改組されても継続されている。

現在、医学専攻は医学専修とがんプロフェッショナル養成専修（東北広域次世代粒子線治療エキスパート医師養成コースと個別化医療推進に向けた臨床腫瘍医育成コース）の2つの専修から、先進的医科学専攻は放射線医学物理コース、分子疫学コース、創薬・システム医科学コースの3つのコースで構成されている。医学専攻及び先進的医科学専攻の学生は、専門分野に関わらず共通講義や基本的研究手法の講義・実習が必修とされ、その内容を問う共通試験の合格が卒業要件の一つとなっている。

山形大学大学院医学系研究科は、山形大学大学院の他研究科の教育組織改革だけでなく、我が国の医療系大学院改革の範となることを目標に改革を続けている。

- \* 大学院設置基準第14条特例を活用した制度：教育上特別の必要があると認められる場合には、必要な手続きを経ることにより、一般学生を対象とする平日の他に、夜間、土、日及び社会人学生の多くが休暇等をまとめて取りやすい、夏季休暇等において授業または研究指導を行うことができる制度。
- \*\* 長期履修学生制度：学生が職業を有している等の事情により、標準終業年限を超えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し、終了することができる制度。

## II 研究科概要

### 1. 設置目的

#### (1) 医学専攻

医学は人の健康を維持、増進し、病気を治療、予防することを目的とするが、大学院の課程もこの精神に沿って医学を広く修め、専攻領域における高度の研究能力と豊かな学識を備えた医学研究者を育成するとともに、広く各方面において将来の指導的役割を果たす人材の育成を目的としている。こうした理念の下に基礎医学、社会医学、及び臨床医学の一本化を図るために医学専攻を設置した。

【山形大学大学院医学系研究科 先進的医科学専攻・医学専攻 便覧 P2】

#### (2) 先進的医科学専攻

高齢化社会の進展に対応して、医学部出身者のみならず人文社会科学、理学、工学、農学、パラメディカル、行政など幅広い分野からの学生を受け入れ、21世紀を先導できる創造力と応用力及び実行力に富んだ高度な研究者、高度専門医療従事者及び高度研究支援技術者を養成するために、新たに先進的医科学専攻を設置した。

【山形大学大学院医学系研究科 先進的医科学専攻・医学専攻 便覧 P2】

### (3)看護学専攻

看護の高度な専門性を有し、介護職を始め他職種からの信頼を得、大局的観点から全体的なケアの向上に向けリーダーシップを発揮できる人材の創出は、看護系高等教育機関の重要な社会的責務と考える。

看護学専攻は、「健やかに育ち健やかに老いることを支援するために、倫理観と科学的根拠に基づき、看護の現象を論理的かつ体系的に説明でき、看護研究を推進できる基礎能力を有する人材育成」を教育理念として博士前期課程を、「高齢社会看護学分野」を中核とする看護学専攻博士後期課程を設置した。

「高齢社会看護学」とは、超高齢社会をネガティブに捉えるばかりではなく、子供から高齢者まで地域に生きる人々の、健康で生きがいと尊厳ある生活を支援し、看護および介護支援に有効な地域の人づくり・システムづくりに参与することによって超高齢社会・地域発展に貢献する看護学を意味している。今後、日本全体が超高齢社会に到達し、高齢化に伴うさまざまな社会整備が促進された豊かな長寿社会を担う人材として、本専攻は、研究マインドのある自立した看護高度専門職業人として、看護及び介護の質の向上を推進するため、看護・介護の理論・技術開発からシステムづくり、人づくりまで統合的な視野で促進できる人材を育成し、我が国の来るべき超高齢社会に貢献することを目指す。

【山形大学大学院医学系研究科 看護学専攻 便覧 P1】

## 2. 沿革

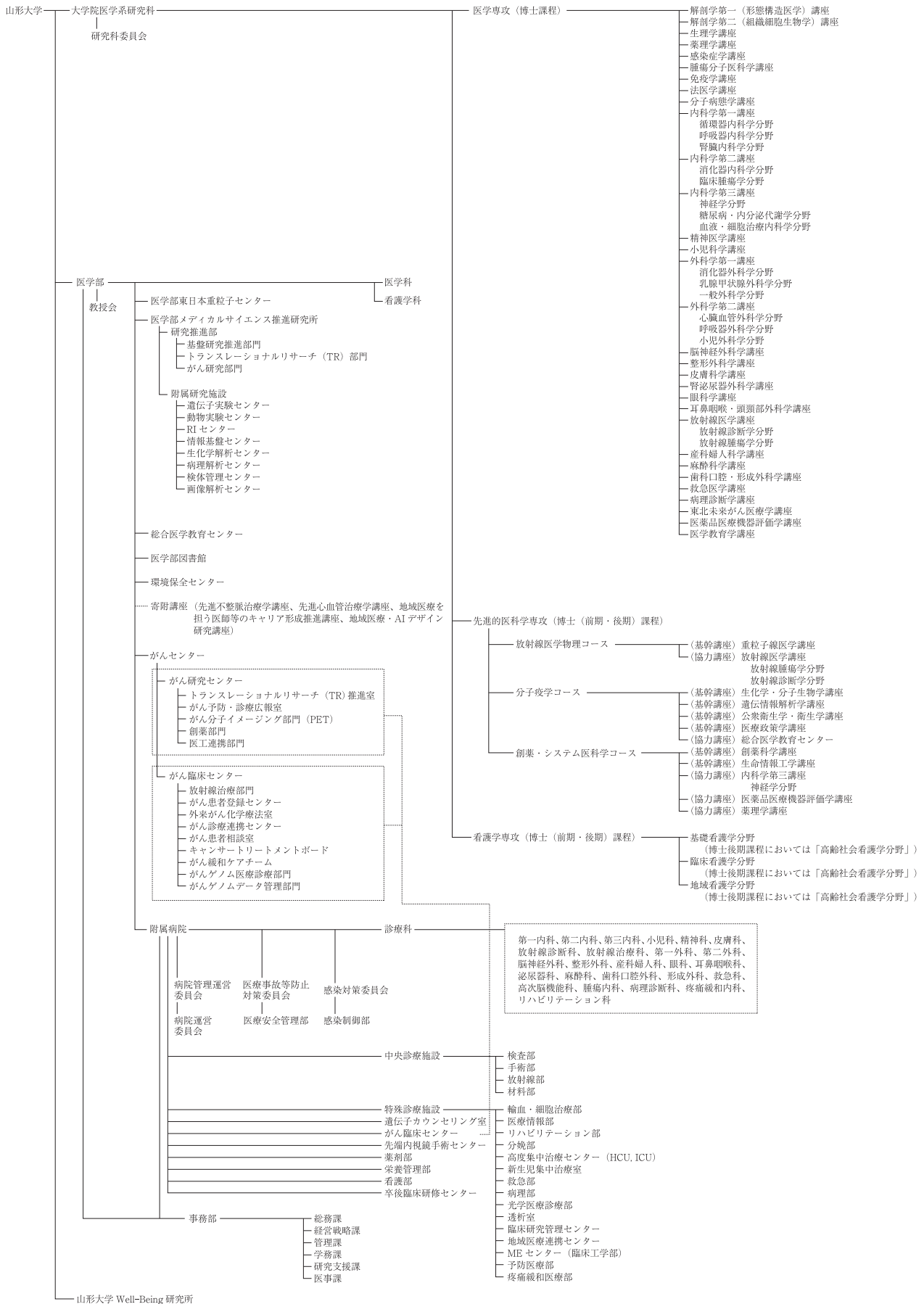
年 月 日	事 項
昭43. 12. 13	山形県に山形大学医学部設立準備委員会が設置された。
昭46. 6. 18	評議会において山形大学医学部の設置を推進することを決定した。
昭47. 8. 1	山形大学医学部創設準備室を設置した。
昭48. 9. 29	国立学校設置法の一部を改正する法律（昭和48年法律第103号）の公布、施行により、医学部が設置された。
昭51. 5. 10	山形大学医学部附属病院が設置された。 医学部及び附属病院の事務を併せて処理する事務部として、医学部事務部が置かれた。
5. 14	第1回医学部慰霊祭及び医学部慰霊塔除幕式を挙行了した。
10. 5	医学部及び医学部附属病院竣工記念式典を挙行了した。
10. 25	医学部附属病院の診療を開始した。
11. 8	医学部附属病院の入院患者受入れを開始した。

年 月 日	事 項
昭53. 4. 1	山形大学附属図書館医学部分館が設置された。
昭54. 3. 20	昭和53年度（第1回）医学部卒業式を挙行了した。
	山形大学大学院医学研究科（博士課程）が設置された。
4. 26	昭和54年度（第1回）山形大学大学院医学研究科入学式を挙行了した。
昭55. 4. 1	山形大学医学部附属動物実験施設が設置された。
昭58. 1. 4	医事業務の電算化を開始した。
3. 23	昭和57年度（第1回）山形大学大学院医学研究科学位記授与式を挙行了した。
4. 1	山形大学医学部附属実験実習機器センターが設置された。
9. 24	山形大学医学部創設十周年記念式典を挙行了した。
昭60. 11. 11	実験動物慰霊碑除幕式を挙行了した。
昭63. 4. 1	医学部学生入学定員20名減（計100名）となった。
5. 28	山形大学附属図書館医学部分館創設十周年記念式典を挙行了した。
平5. 4. 1	医学部看護学科が設置された。
	寄附講座「細胞情報解析学講座」が設置された。
4. 26	平成5年度（第1回）医学部看護学科入学式を挙行了した。
11. 6	山形大学医学部創設二十周年記念式典を挙行了した。
平9. 3. 25	平成8年度（第1回）医学部看護学科卒業式を挙行了した。
平9. 4. 1	山形大学大学院医学研究科の名称が山形大学大学院医学系研究科に変更された。山形大学大学院医学系研究科に看護学専攻（修士課程）が設置された。
4. 24	平成9年度（第1回）山形大学大学院医学系研究科看護学専攻入学式を挙行了した。
平11. 3. 25	平成10年度（第1回）山形大学大学院医学系研究科看護学専攻学位記授与式を挙行了した。
平15. 11. 15	山形大学医学部創設三十周年記念式典を挙行了した。
平16. 4. 1	山形大学大学院医学系研究科生命環境医科学専攻（博士課程、前期・後期課程）を設置した。
平19. 4. 1	山形大学大学院医学系研究科看護学専攻（博士課程、前期・後期課程）を設置した。

年 月 日	事 項
平22. 3. 25	平成21年度（第1回）山形大学大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程学位記授与式を挙行政した。 寄附講座「地域医療システム講座（山形県）」が設置された。
平24. 4. 1	山形大学医学部附属実験実習機器センターと山形大学医学部情報基盤センターを統合し、山形大学医学部教育研究支援センターを設置した。
平25. 4. 1	山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所が設置された。
平25. 11. 25	山形大学医学部創立四十周年並びに看護学科設立二十周年記念式典を挙行政した。
平26. 1. 1	附属動物実験施設、教育研究支援センター、RIセンター及び遺伝子実験施設がメディカルサイエンス推進研究所に包括された。
平26. 4. 1	寄附講座「地域医療人キャリアアップ推進講座（山形県）」が設置された。
平27. 4. 1	寄附講座「先進がん医学講座」が設置された。
平28. 4. 1	寄付講座「最先端医療創生・地域の医療人育成推進講座（山形県）」が設置された（～2020年）。
平29. 4. 1	山形大学大学院医学系研究科先進的医科学専攻（博士課程、前期・後期課程）を設置した。
平31. 1. 1	寄付講座「先進不整脈治療学講座」が設置された。
2. 1	寄付講座「先進心血管治療学講座」が設置された。
9. 1 9	山形大学医学部附属病院が厚生労働省「がんゲノム医療拠点病院」に指定された。
令2. 12. 14	山形大学医学部東日本重粒子センター開所式を挙行政した。
令5. 4. 1	寄付講座「地域医療を担う医師等のキャリア形成推進講座（山形県）」が設置された。
令5. 11. 24	山形大学医学部創立五十周年並びに看護学科設立三十周年記念式典を挙行政した。
令6. 3. 31	50周年記念講堂が完成した。



### 3. 機構図 (令和6年4月1日)



#### 4. 現況（令和6年5月1日時点）

##### 専攻の構成と学生数

課程	入学定員	在籍者数
医学専攻	26	94
先進的医科学専攻（博士前期課程）	6	8
先進的医科学専攻（博士後期課程）	4	13
看護学専攻（博士前期課程）	10	36
看護学専攻（博士後期課程）	3	15

##### 本務教員数と年齢構成

職名	人数	年齢				
		～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65歳～
教授	40	0	0	15	25	0
准教授	33	0	6	20	7	0
講師	13	0	7	6	0	0
助教	81	22	43	13	3	0
助手	0	0	0	0	0	0
計	167	22	56	54	35	0
割合（%）	-	13%	34%	32%	21%	0%

### Ⅲ 領域ごとの自己点検評価

#### 1 医学専攻

##### 1.1 教育目標と3つのポリシー

山形大学の教育目標を踏まえ、教育プログラム（医学専攻）では、医学の幅広い知識を教授して生命の真理を探究する柔軟な発想力と広い視野を育て、分野横断的な教育・研究を重視した先進的な専門教育により科学的な思考力・表現力・方法論を修得させることを目指している。卒業後、独創性と柔軟性を兼ね備え様々な分野で人類社会の発展に貢献できる人材の育成を目標としている。

#### 【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)】

山形大学大学院及び大学院医学系研究科の修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、教育プログラム（医学専攻）では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「博士」の学位を授与する。

1. 専門分野における最先端の学力とともに基礎医学、臨床医学、社会医学各分野における幅広い知識や技能を身に付けている。
2. 専門職従事者としての高度な倫理観と責任感を持ち、コンプライアンス遵守の精神を備えている。
3. 日々進歩する医学に対応した手法を研究・開発できる能力を有している。
4. 現在の社会状況を理解し、医学において取り組むべき課題を判断し、それに対する適切な行動ができる。
5. 広い視野から研究を立案し、遂行・統括することができる。
6. 研究結果を学会や学術論文で発表することができる総合的な能力を獲得している。

#### 【教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学大学院及び大学院医学系研究科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、医学専攻の学生が体系的かつ主体的に学習できるように研究課程を編成し、これに従って教育を行う。

1. 各学生の所属講座において、専門職従事者としての知識と技能を体得するために、高度に専門的な研究指導・教育を行う。
2. 基礎医学・臨床医学・社会医学それぞれの医学研究・教育の分野において中心的な役割を担う人材を育てるような共通カリキュラムを編成する。

3. がんに対する高度な専門知識・資格取得を希望する学生にも対応できるようなカリキュラムを配置する。
4. 専門分野以外にも幅広い豊かな知識・技術を身につけることができる多様で総合的な教育を展開する。
5. 自ら課題を発見して、解決に向けて探求し、成果を表現する能力を培うため、より実践的な授業を実施する。
6. 学習成果の評価においては、不断の教育課程の点検・学生からの評価を組織的に行い、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定する。
7. 基礎医学・臨床医学・社会医学の発展に資する知識と技能、さらには専門分野に対し主体的・自律的に取り組む姿勢を評価する。

#### 【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

医学専攻は、専攻領域における高度な研究能力と豊かな学識及び高い倫理観を備えた医学研究者を育成するとともに、広く各方面において多様で複雑な課題の解決に取り組み、将来の指導的役割を果たす人材を育成する。

また、がん対策の一層の充実を図るため、若い人材を啓発し、専門資格取得のために必要な学識、技能を修得させ、学際的かつ統合的な臨床研究推進能力を有したがん専門医を養成する。

医学専攻の求める学生像は以下のとおりである。

#### ◆求める学生像

- ・人間性に優れ、高い問題意識と倫理観を持ち飛躍的に進歩している医学研究に積極的に取り組む意欲のある人
- ・人の健康を維持、増進するために、病気の発症メカニズムを日々研究し、治療や予防に役立てる意欲のある人
- ・広く各方面で多様な課題の解決に向け指導的役割を果たす意欲のある人
- ・がんを含む各種疾患領域に対する高度な専門知識を修得する意欲のある人

### 1.2 学生の受入れ

上記の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、一般入試の複数回実施などにより、学生の入学促進を図っている。直近の5年度入試の状況は表1、定員充足状況は表2のとおりである。医学専攻への入学者のほとんどが現役の医師であり、本学附属病院や近隣の病院で勤務している。専門医資格を重視する風潮もあり、近年の入学志望者が減少しており、入学定員については今後検討が必要である。しかしながら、大学院医学系研究科の設置目的として、高度な技能と研究能力を併せ持つ臨床専門領域の指導者並びに臨床医学の素養を有する医学系研究者を養成することを掲げており、大学院教育が、医療水準

の向上に関わるため、入学定員の見直しは十分な議論を必要とする。現時点での課題として、教育研究拠点として充実した大学院教育を形成していく。

表1 直近5年度の入試状況（秋季入学を含む）

入学年度	専攻名	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
令和2年度	医学専攻	26	25	25	25	25
令和3年度	医学専攻	26	28	28	28	28
令和4年度	医学専攻	26	15	15	15	15
令和5年度	医学専攻	26	19	19	19	19
令和6年度	医学専攻	26	15	15	15	15

表2 直近5年の定員充足状況（各年度5月1日時点）

年度	専攻名	収容定員（人）	現員（人）	定員充足率（％）
令和2年度	医学専攻	104	114	110
令和3年度	医学専攻	104	122	117
令和4年度	医学専攻	104	114	110
令和5年度	医学専攻	104	102	98
令和6年度	医学専攻	104	94	90

### 1.3 教育の実施体制と内容

医学専攻に置く教育・研究領域は共通領域、分子生物・細胞領域、生殖・発達・加齢領域、生体調節領域、生体防御領域、高次神経活動領域及び人類・社会領域とし、それぞれも研究領域における主な研究領域を次頁便覧抜粋別表1、担当教育研究講座(以下「講座」という。)を便覧抜粋別表2の通りに定める。

医学専攻には、医学専修、がんプロフェSSIONAL養成専修を置く。がんプロフェSSIONAL養成専修には東北広域次世代粒子線治療エキスパート医師養成コース、個別化医療推進に向けた臨床腫瘍医育成コースを置く。

学生の研究指導及び履修指導を行うため、学生ごとに所属講座および研究指導教員を定める。なお、学生が希望した場合に限り、所属講座とは別に研究指導及び履修指導補助として、所属講座以外の医学専攻または先進的医科学専攻の講座の中から研究指導協力講座を定めることができる。がんプロフェSSIONAL養成専修を専攻する学生については所属講座又

は研究指導協力講座に放射線医学講座放射線腫瘍学分野、内科学第二講座臨床腫瘍学分野のいずれかが含まれる必要がある。

医学専修においては所属講座が開講する授業科目及び所属講座以外の講座が開講する授業科目について30単位以上履修しなければならない。

必修科目として共通授業科目を設け、他専攻（先進的医科学専攻及び看護学専攻）の学生も同時に受講することができる教育プログラムを実施している。最終的には試験による達成度評価を行うことにより、幅広い学識が修得できる。

また、各講座・分野における研究内容の発表及び意見交換等を行う研究推進カンファレンスを定期的に行うことにより、トランスレーショナルリサーチにつながる取組みを実施している。

学生は所属講座等の指導教員から研究指導を受け、原則として入学後1年以内に中間報告審査を受ける。研究成果をまとめた学位論文は、指導教員の承認を経て研究科長に提出され、所定の単位を習得した上で最終試験を受ける。最終試験終了後に研究科委員会にて修了の可否に対する意見聴取を行い、学長へ報告し学位が与えられることとなる。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に則した授業科目となっているかの確認としてカリキュラム・チェックリストを毎年度作成し、教育課程が体系的に相応しいかを全学の教育ディレクター制度に基づきチェック体制を整えている。（資料3参照）

研究環境として山形大学医学部図書館、山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所動物実験センター、山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所生化学解析センター、山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所情報基盤センター、山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所RIセンター及び山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所遺伝子実験センターを有する。

別表1 教育・研究領域

領域	主な研究領域
I 共通領域	計測技術、情報科学
II 分子生物・細胞領域	細胞科学、細胞診断、血液疾患、腫瘍学
III 生殖・発達・加齢領域	分子遺伝、生殖、形態形成、個体識別、成長発達異常、老化、発生
IV 生体調節領域	栄養、代謝、内分泌、自律神経、呼吸・循環、心身医学
V 生体防御領域	微生物学、感染症、免疫、止血・線溶・補体学、病態生理学
VI 高次神経活動領域	神経科学、感覚・運動・行動の異常、発達心理学、心理医学
VII 人類・社会領域	情報科学、疫学、予防医学、健康政策、司法医学、人工学、家族・社会学、産業労働学、地域医療

別表2 担当講座等

基礎系	解剖学第一（形態構造学）講座、解剖学第二（組織細胞生物学）、腫瘍分子医学講座、生理学講座、感染症学講座、免疫学講座、薬理学講座、分子病態学講座、方医学講座、医薬品医療機器評価学講座
臨床系	皮膚科学講座、がん科学講座、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座、外科学第一講座消化器外科学分野、外科学第一講座乳腺甲状腺外科学分野、外科学第一講座一般外科学分野、外科学第二講座心臓血管外科学分野、外科学第二講座、呼吸器外科学分野、外科学第二講座小児外科学分野、脳神経外科学講座、麻酔科学講座、救急医学講座、整形外科科学講座、腎泌尿器外科学講座、精神医学講座、小児科学講座、産婦人科学講座、内科学第一講座循環器内科学分野、内科学第一講座呼吸器内科学分野、内科学第一講座腎臓内科学分野、内科学第二講座消化器内科学分野、内科学第二講座臨床腫瘍学分野、内科学第三講座神経学分野、内科学第三糖尿病・内分泌代謝学分野、内科学第三講血液・細胞治療内科学分野、液性病態診断医学講座、放射線医学講座放射線診断学分野、放射線医学講座放射線腫瘍学分野、歯科口腔・形成外科学講座、病理診断学講座
共通	医学教育学講座、生化学解析センター、検査部

【山形大学大学院医学系研究科 先進的医科学専攻・医学専攻 便覧 P55】

#### 1.4 教育の成果

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に則した修了要件・学位審査基準を便覧に掲載し、入学時オリエンテーションの際に説明を行っている。また、論文提出までの流れをフローチャートで掲載し、学位論文審査日程等は学内掲示板や大学ホームページで周知している。

過去5年の標準修業年限卒業率は表3、留年率、休学率、退学率、学位授与数については表4のとおりとなっている。

医学専攻の学生は、そのほとんどが就業しており、修業年限の2倍の範囲内で履修期間を設定する長期履修制度を利用する場合があります、このことが標準修業年限内での修了率が低くなっている要因である。また、医学部附属病院外への転勤もあるため、休学者も多い傾向となっている。

博士（医学）の学位授与者数は設置時から2023年度までに820人となっている。なお、優れた研究業績を上げた者は在学期間を短縮することができ、3年間で修了することができる。条件として、主論文が国際的に権威ある査読制度を持つ学術誌に当該学生を筆頭著者としてすでに掲載済み、あるいは掲載が決定された論文であること、副論文が国際的に権威ある査読制度を持つ学術誌に当該学生を筆頭著者としてすでに掲載済み、あるいは掲載が決定された論文であること（ただし、この場合、筆頭著者でなくとも良い）を満たすことが必要である。

表3 修了率の推移

修了率	2019	2020	2021	2022	2023
標準修業年限内	66.67% (10/15)	56.52% (13/23)	54.55% (12/22)	57.14% (16/28)	52% (13/25)
標準修業年限× 1.5年内	79.17% (19/24)	70.37% (19/27)	93.33% (14/15)	86.96% (20/23)	77.27% (17/22)

※長期履修制度を利用している学生について、長期履修の設定年限を標準修業年限内として算入しない。

表4 留年率、休学率、退学率、学位授与状況

	2019	2020	2021	2022	2023
留年率	3.64% (4/110)	5.26% (6/114)	6.56% (8/122)	3.51% (4/114)	5.88% (6/102)
休学率	12.72% (14/110)	14.91% (17/114)	15.57% (19/122)	12.28% (14/114)	7.84% (8/102)
退学率	2.73% (3/110)	1.75% (2/114)	1.63% (2/122)	4.39% (5/114)	3.92% (4/102)
学位授与数	21	16	22	25	17

### 1.5 修了生の進路・研究・社会貢献

修了者の多くは医師であり、修了後は医師として医療機関などでより高い研究を行うとともに医療技術の提供を行なっていく。また、大学教員となる者は科学研究費など競争的資金を積極的に獲得し、研究の継続及び推進を行い、キャリアを積んでいく。同時に後進の研究指導などを行い、研究者育成に努めている。直近5年の修了生について、修了後、大学教員が34名、県内外の病院勤務が56名、国内外における大学での研究者及び海外へ留学中が8名となっている。教育・医療・研究の多方面から社会・地域貢献できる人材を輩出している。

表5 修了者の進路

	2019	2020	2021	2022	2023	2024※
教員	11	6	6	6	5	0
医師	9	7	13	15	11	1
大学研究員・留学中	1	1	2	2	1	1
計	21	14	21	23	17	2

※2024は2024.9.30修了者の数。※※進路不明者を除く。



## 2 先進的医科学専攻

### 2.1 教育目標と3つのポリシー

本大学院医学系研究科先進的医科学専攻では、博士前期課程及び博士後期課程において、「放射線医学物理コース」、「分子疫学コース」、「創薬・システム医科学コース」の3コースを設けている。医学部出身者のみならず、理学、工学、薬学、農学、人文社会科学を含む幅広い分野から学生を受け入れ、医科学の発展に貢献できる判断力と実行力を身につけた、独創性に富む人間性豊かな人材を育成することを目標としている。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)は、高い倫理観を備え、最先端の知識及び研究能力を有する研究者の養成を目的として、具体的かつ明確に定められている。博士後期課程においては、指導的立場で活躍できる能力を備えることも明記してある。

教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー：CP)については、医学系の基礎的な学力の教育に加え、異分野が連携した創意あふれる教育を実施するとともに、双方向の講義や適切な研究指導を行っている。成績評価基準に基づき達成度が明確になるような方法で評価することで、学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育の過程が編成されており、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)と整合している。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー：AP)について、先進的医科学専攻の「求める学生像」は、医学・医療の問題について、高い問題意識を持ち、具体的な解決策の探求に意欲のある人や、新たな産業技術の創出及びその海外における展開に貢献する意欲のある人、トランスレーショナルリサーチや生物統計学、重粒子線療法について習得し、実践する意欲のある人と明示している。博士後期課程においてはリーダーとなる意欲についても追記している。能力等を有する人を多面的・総合的に評価するための「入学者選抜の基本方針」について、判定内容(筆記試験、口頭試問、出願書類を総合して判定)についても明記されている。

先進的医科学専攻の教育は、以下に示す学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)、教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー：CP)、入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー：AP)に基づいて実施しており、それらの間には整合性があるものと考えている。

なお、教育カリキュラム(プログラム)については、毎年度、理事特別補佐による「教育プログラム検証作業」が実施され、山形大学の教育方針や各研究科のミッション及びDP、CPに沿い、適切かつ体系的な科目配置であることが検証されている。(資料3参照)

#### 博士前期課程の3つのポリシー

##### 【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)】

山形大学大学院及び大学院医学系研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、教育プログラム(先進的医科学専攻・博士前期課程)では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「修士」の学位を授与する。

1. トランスレーショナルリサーチをはじめとした最先端の深い知識を習得し研究能力を身に付けている。
2. 研究者として高度な生命倫理観を有している。
3. 医科学の基礎的な幅広い知識を身に付けた上で、自らの研究への想像力、応用力、実行力を有している。
4. 高齢者社会の進展に伴う医療上の諸課題の解決を図る能力を獲得している。
5. 豊かな人間力と幅広い視野をもち、多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力を有している。
6. 研究結果を学会や学術論文で発表することができる総合的な能力を獲得している。

#### 【教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学大学院及び大学院医学系研究科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、先進的医科学専攻（博士前期課程）の学生が体系的かつ主体的に学習できるように研究課程を編成し、これに従って教育を行う。

1. トランスレーショナルリサーチを推進できる知識と技能を体得するための総合的なカリキュラムを編成する。
2. 先進的な医学研究を担う人材として育成するために、様々な分野が連携して創意あふれる教育を展開する。
3. 国際的な競争力や多面的な研究開発戦略を構想・推進できるようになるために、適切な助言・研究指導を行う。
4. 学生の出身分野に応じて、医学系の基礎的な学力の定着に重点をおいた教育を行いつつ、それぞれのコースで先進的役割を担える人材として育成する。
5. 自らの研究に対し、能動的な課題発見・解決能力を培うため、双方向の講義や適切な研究指導を行う。
6. 知の総合的推進力や豊かな人間力を涵養する授業等を適切に組み合わせ、成績評価基準に基づき厳格な評価を行います。
7. 医科学やトランスレーショナルリサーチに対する知識と技能、さらには主体的・自律的に学問に取り組む姿勢を評価する。

#### 【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

先進的医科学専攻では、放射線治療を担当する放射線腫瘍医や医学物理士など、幅広く放射線生物学、放射線防護学を専門とする者を育成する「放射線医学物理」、地域に根差したゲノムコホート研究＝山形県コホート研究（Yamagata Study）を基盤とした個別化医療実現のための教育、研究をおこない、疫学・生物統計学、遺伝子医学、公衆衛生学や医療政策学などを専門とする者を育成する「分子疫学」、創薬・医療機器開発をシステムティックに推進する人材育成・研究を専門とする者を育成する「創薬・システム医科学」の3つのコー

スがある。薬学、理学、工学、農学、人文社会科学、コメディカル、行政など幅広い分野の出身で、これらの学問領域を学び、修得して高い倫理観を持って、現代の多様な課題解決に取り組み、社会に還元する意欲のある人間性に優れた学生を受け入れる。

先進的医科学専攻の求める学生像は以下のとおりである。

◆求める学生像

- ・脳卒中に加えてがん、心筋梗塞、生活習慣病、認知症等、社会的に大きな問題となっている疾患を対象とした研究について、診断・治療の開発に関わるシーズ探索から実地臨床応用までの一連のプロセスを理解し、医学・医療の問題について、高い問題意識を持ち、具体的な解決策の探求に意欲のある人
- ・各種疾患領域や医療の多様で複雑な課題のため、医学のみならず行政・薬学・理学・工学・農学等の視点から有効で具体的な解決策を探求し、新たな産業技術の創出及びその海外における展開に貢献する意欲のある人
- ・人間性に優れ高い倫理観を持ち、健康で豊かな社会の実現を目指してトランスレーショナルリサーチの修得に意欲のある人
- ・遺伝学と統計学の専門知識を併せ持つ生物統計学の修得に意欲のある人
- ・低侵襲の次世代がん治療である重粒子線治療をはじめとした、粒子線治療のさらなる進歩・発展に寄与する意欲のある人

博士後期課程の3つのポリシー

【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)】

山形大学大学院及び大学院医学系研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、教育プログラム(先進的医科学専攻・博士後期課程)では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「博士」の学位を授与する。

1. トランスレーショナルリサーチをはじめとした最先端のより高度な知識を習得し研究能力を身に付けている。
2. 研究者又は指導者として卓越した生命倫理観を有している。
3. 医科学の高度で専門的な知識を身につけた上で、自らの研究への想像力、応用力、実行力を有し、チームとして展開できる。
4. 高齢者社会の進展に伴う医療上の諸課題の解決を図る実践的な能力を獲得している。
5. 広い視野から研究の立案・遂行・統括することができ、リーダー的な立場で寄与することができる。
6. 高度で最先端の研究結果を学会や学術論文で発表することができる総合的な能力を獲得している。

### 【教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学大学院及び大学院医学系研究科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、先進的医科学専攻（博士後期課程）の学生が体系的かつ主体的に学習できるように研究課程を編成し、これに従って教育を行う。

1. トランスレーショナルリサーチを推進できる知識と技能を体得するための高度で専門的なカリキュラムを編成する。
2. 先進的で卓越した医学研究を担う人材として育成するために、様々な分野が連携して創意あふれる教育を展開する。
3. 国際的な競争力や多面的な研究開発戦略を主導的な立場で構想・推進できるようにするために、適切な助言・研究指導を行う。
4. 学生の出身分野に応じて、医学系の基礎的な学力の定着に加え、さらに深化した教育を行いつつ、それぞれのコースで先進的・指導的役割を担える人材として育成する。
5. 自らの研究に対し、能動的な課題発見・自律的な解決能力を培うため、双方向の講義や高度で適切な研究指導を行う。
6. それぞれのコースの目指す教育内容に照らし合わせて策定した成績評価基準に基づいて、到達度が明確になるような方法で評価を行う。
7. 医科学やトランスレーショナルリサーチに対する知識と技能、さらには主体的・自律的・実践的に学問に取り組む姿勢を評価する。

### 【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

先進的医科学専攻では、放射線治療を担当する放射線腫瘍医や医学物理士など、幅広く放射線生物学、放射線防護学を専門とする者を育成する「放射線医学物理」、地域に根差したゲノムコホート研究＝山形県コホート研究（Yamagata Study）を基盤とした個別化医療実現のための教育、研究をおこない、疫学・生物統計学、遺伝子医学、公衆衛生学や医療政策学などを専門とする「分子疫学」、創薬・医療機器開発をシステムティックに推進する人材育成・研究を専門とする者を育成する「創薬・システム医科学」の3つのコースがある。

これらの学問領域を学び、修得して高い倫理観を持って現代の多様な課題解決に取り組む、社会に還元する意欲のある学生で、今後この分野の研究、人材育成にリーダーシップをとる意欲のある人間性に優れた学生を受け入れる。

先進的医科学専攻の求める学生像は以下のとおりである。

#### ◆求める学生像

- ・修得した自然・社会科学の知識と専門技術等に基づき、脳卒中に加えてがん、心筋梗塞、生活習慣病、認知症等、社会的に大きな問題となっている疾患の複雑な諸課題に関して、診断・治療の開発に関わるシーズ探索から実地臨床応用までの一連のプロセスを総合体系的に把握しつつ有効で具体的な解決策を自立的に探求し、新たな産業技術の創出及び

その海外における展開を実践する能力を身に付けたい人

- ・人間性に優れ高い倫理観を持ち、健康で豊かな社会の実現を目指してトランスレーショナルリサーチを推進する教育・研究を行なう意欲のある人
- ・修得した遺伝学と統計学の専門知識を活用して生物統計学の専門家として研究、人材育成のリーダーとなる意欲のある人
- ・低侵襲の次世代がん治療である重粒子線療法について、その実践・指導・普及のリーダーとなる意欲のある人

## 2.2 学生の受入れ

上記の入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生の受入れを行なっている。本大学院医学系研究科先進医科学専攻の多くの入学者は、本学医学部附属病院で勤務している医療従事者であり、医療現場で抱えている課題解決に取り組み、研究能力を身に付け、社会に還元したいと考える人が多い。また、本学以外の医療機関や研究機関、行政に勤務している入学者もあり、いずれも高い倫理観を有し、意欲的な人が大学院入学を希望していることから、適切な学生の受入れが行われていると評価できる。

入学定員に対する入学者数の評価であるが、博士前期課程では定員6名に対し、令和3年度が5名、令和4年度入学者が3名、令和5年度入学者が4名、令和6年度が5名と少なかった。博士後期課程については、定員4名に対し、令和4年度入学者が1名、令和6年度入学者が1名と少なかった。定員充足状況においては、令和2年度において博士前期課程29%、博士後期課程50%と低値を示したが、その後令和4年度には、博士前期課程100%、博士後期課程92%と適正な数値となっている。しかしながら、令和5年度以降博士前期課程が75%以下で経過しており、博士前期課程の学生の充足には課題が残っている。令和5年10月から「臨床感染症学教育プログラム」を開設（資料5参照）し、コロナウイルスパンデミックの経験を踏まえ、専門的知識、実践能力を備えた感染症医療人材を育成すると同時に、入学定員充足へ繋がるよう広報している。また、令和7年度から創薬・システム医科学コースを改編し、「創薬・リハビリテーション医療学コース」を置き、超高齢社会における高齢者リハビリテーション医療を中心的に支える高度医療人の育成を目指し、地域社会に貢献できる医療人の育成を行う。臨床感染症学教育プログラムとともに、入学希望者の増加を推進するものである。

表6 直近5年度の入試状況（秋季入学を含む）

入学年度	専攻名	課程	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
令和2年度	先進的医科学専攻	博士前期課程	6	7	7	7	7
		博士後期課程	4	4	4	4	4
令和3年度	先進的医科学専攻	博士前期課程	6	5	5	5	5
		博士後期課程	4	5	5	5	5
令和4年度	先進的医科学専攻	博士前期課程	6	3	3	3	3
		博士後期課程	4	1	1	1	1
令和5年度	先進的医科学専攻	博士前期課程	6	4	4	4	4
		博士後期課程	4	4	4	4	4
令和6年度	先進的医科学専攻	博士前期課程	6	5	5	5	5
		博士後期課程	4	1	1	1	1

表7 直近5年の定員充足状況（各年度5月1日時点）

年度	専攻名	課程	収容定員 (人)	現員 (人)	定員充足率 (%)
令和2年度	先進的医科学専攻	博士前期課程	21	6	29
		博士後期課程	22	11	50
令和3年度	先進的医科学専攻	博士前期課程	12	10	83
		博士後期課程	17	14	82
令和4年度	先進的医科学専攻	博士前期課程	12	12	100
		博士後期課程	12	11	92
令和5年度	先進的医科学専攻	博士前期課程	12	9	75
		博士後期課程	12	15	125
令和6年度	先進的医科学専攻	博士前期課程	12	8	67
		博士後期課程	12	13	108

### 2.3 教育の実施体制と内容

教育課程について、教育プログラムを構成する各授業科目の内容は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）に沿って、体系的かつ主体的に医科学を学習できるように研究過程が編成されており、これに従った教育が実施されていることから、相応しい水準にあるといえる。

社会人学生の環境を考慮し、eラーニングやDVDを活用した講義形態を多く採用している。医師として実務経験のある教員が、専門分野の経験を生かしたりサーチに関して講義

を行うトランスレーショナルリサーチ特論を実施し、最先端のより高度な知識を習得し研究能力を身に付けている。

知識を与えるだけの講義のみではなく、双方向の講義・演習や適切な助言・研究指導を取り入れた学習指導方法が採用されている。学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)及び教育課程の編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー：CP)に則したものとなっている。

それぞれのコースの目指す教育内容に照らし合わせて策定した成績評価基準に基づいて、到達度が明確になるような方法で評価を行うとともに、主体的・自律的・実践的に学問に取り組む姿勢も併せて評価しており、教育課程の編成・実施の方針(CP)に則して、公正かつ厳格な成績評価が行われている。

学習環境について、講義・演習に使用する講義室をはじめ、本学医学部メディカルサイエンス推進研究所には教育・研究に必要な設備を何時でも使用出来る状態に維持し、本大学院医学系研究科の教職員、大学院生による教育・研究活動を支援する体制が整えられている。教育プログラムに対応し、有効に活用されている。学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)に則して、学生の研究課題・能力等に応じて、必修科目に加えて、多彩な選択科目の履修について指導・助言を行っており、適切な履修指導、支援が行われている。本大学院医学系研究科先進的医科学専攻の学生の多くは、本学医学部附属病院に勤務する社会人大学院生である。本学医学部附属病院に勤務する博士前期過程入学対象者には、経済的な支援を受けることができるスキルアップ研修生制度が設けられており、研修生へは入学料及び授業料の半額補助を行う。スキルアップ研修生制度は導入された令和 2 年からこれまでに本専攻(博士前期課程)において 11 名が利用している。また、積極的な研究成果の公表を推奨しており、学会や学術論文で発表する際には、所属講座の研究費による旅費等の支援が行われている。社会人大学院生が多いことから長期履修学生制度を利用する学生も多く、従事している業務の都合により研究活動のエフォートが制限される場合にもあらかじめ所属講座の担当教員と相談した上で、研究計画の見直し等について助言している。

## 2.4 教育の成果

学習成果について、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)に則して、本学医学系研究科先進的医科学専攻履修規程に従い、履修科目に係る成績の審査、学位論文の提出、最終試験を経て公正な修了判定が実施されている。

学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するために、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行っていることから、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)に則して、適切な学習成果が得られていると考える。

博士前期課程における標準修業年限内における修了率は、令和元年度に 75%であったが、令和 2 年以降は 80%以上を推移している。標準修業年限×1.5 年内における修了率は、令和

元年度に 57%、令和 2 年度に 75%と低かったが、令和 3 年以降は 80%以上を推移している。

博士後期課程における標準修業年限内における修了率は、これまでのところ 50%以下を推移している。標準修業年限×1.5 年内における修了率についても低値である。社会人学生が多くを占めるため、長期履修者や休学等が増える傾向にあり、このような結果になっていると考えられる。

博士前期課程における留年率は 0%、休学率は令和元年に 25%と高かったが令和 2、3 年度には 0%となり、ここ 2 カ年では 8.33%、11.11%となっている。退学率は、令和元年度に 12.5%、令和 5 年に 11.11%であった。学位授与数は、令和元年度から令和 3 年にかけては 2~3 件/年であったが、令和 4 年、令和 5 年度は 5 件ずつと数が伸びている。

博士後期課程における留年率は、令和 3 年度 7.14%、令和 4 年度 9.09%、令和 5 年度 6.67%となっており、留年者が毎年出ている。休学率は、令和 4 年 9.09%、令和 5 年度 6.67%と数値としては大きくないが、近年、休学者が一定して存在する。退学率は、令和 3 年に 14.29%、令和 5 年に 6.67%であった。学位授与数は、令和元年度に 3 件、令和 2 年度以降は 1~2 件/年であり、学位論文の提出に至る学生を増やす努力が必要である。

先進的医科学専攻の学生は、そのほとんどが就業しており、修業年限の 2 倍の範囲内で履修期間を設定する長期履修制度を利用する場合があるが、博士前期課程においては、就業しながらも修業年限内で修了する学生の割合が高い傾向にある。設立から 2023 年度までに、前身の生命環境医科学専攻では博士前期課程において 103 人、博士後期課程において 49 人が、平成 29 年度に先進的医科学専攻へ改編されてからは、博士前期課程において 22 人、博士後期課程において 9 人が学位授与されている。

表 8 修了率の推移（博士前期課程）

修了率	2019	2020	2021	2022	2023
標準修業年限内	75% (3/4)	100% (3/3)	85.71% (6/7)	80% (4/5)	100% (3/3)
標準修業年限× 1.5 年内	57.14% (4/7)	75% (3/4)	100% (3/3)	85.71% (6/7)	80% (4/5)

※長期履修制度を利用している学生について、長期履修の設定年限を標準修業年限内として算入しない。

表 9 修了率の推移（博士後期課程）

修了率	2019	2020	2021	2022	2023
標準修業年限内	50% (3/6)	33.33% (1/3)	50% (1/2)	25% (1/4)	20% (1/5)
標準修業年限× 1.5 年内	—	66.66% (4/6)	33.33% (1/3)	50% (1/2)	25% (1/4)

※長期履修制度を利用している学生について、長期履修の設定年限を標準修業年限内として算入しない。

※先進的医科学専攻は 2017 年度から開設のため「標準修業年限×1.5 年内」の 2019 年度修了者は算定できない。



表 10 留年率、休学率、退学率、学位授与状況（博士前期課程）

	2019	2020	2021	2022	2023
留年率	0% (0/8)	0% (0/6)	0% (0/10)	0% (0/12)	0% (0/9)
休学率	25% (2/8)	0% (0/6)	0% (0/10)	8.33% (1/12)	11.11% (1/9)
退学率	12.5% (1/8)	0% (0/6)	0% (0/10)	0% (0/12)	11.11% (1/9)
学位授与数	3	3	2	5	5

表 11 留年率、休学率、退学率、学位授与状況（博士後期課程）

	2019	2020	2021	2022	2023
留年率	0% (0/10)	0% (0/11)	7.14% (1/14)	9.09% (1/11)	6.67% (1/15)
休学率	0% (0/10)	0% (0/11)	0% (0/14)	9.09% (1/11)	6.67% (1/15)
退学率	0% (0/10)	0% (0/11)	14.29% (2/14)	0% (0/11)	6.67% (1/15)
学位授与数	3	2	1	2	2

## 2.5 修了生の進路・研究・社会貢献

先述の通り、本大学院医学系研究科先進的医科学専攻の学生の多くは、本学医学部附属病院に勤務する社会人大学院生である。修了後は所属部署での勤務を行いながら学術研究活動を続ける人が多く、学会発表や学術論文での成果報告を行なっている。また、後進の育成にも積極的に関与し、組織における学術基盤の強化に貢献している。医療系職種においては、学会発表や学術論文等の成果が、各種学会の認定・専門資格取得要件に含まれるものもある。そのため、医療の質を高める観点からも修了生の果たすべき指導的役割は大きい。

社会人大学院生がほとんどであるため、大学院入学時と修了後の職業に大きな違いはない。職業は、薬剤師、臨床工学技士、診療放射線技師、作業療法士、管理栄養士、大学教員や研究者である。県内の医療職が多く、所属勤務先への貢献・後進の指導に、大学院での研究成果を役立てている。

表 12 修了者の進路

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
教員	0	0	0	0	2	1
医師	0	0	0	0	2	0
薬剤師	1	1	0	0	0	0
薬剤師以外の医療職 (診療放射線技師・臨床工学技 士・視覚技能士・栄養士)	0	3	0	4	3	1
その他（企業等）	2	0	0	1	0	0
総計	3	4	0	5	7	2

※2024 は 2024.9.30 修了者の数。 ※※進路不明者を除く。

### 3 看護学専攻

#### 3.1 教育目標と3つのポリシー

近年、我が国では科学技術の発展に伴う医療面での高度化が進むと同時に、急速な高齢化社会が到来し、また、地域医療及び保健福祉医療の包括的な対策が進行している。このような社会の変化に対応するために、専門職として活躍できる看護職者の養成や看護系教員の養成が必要であると同時に看護専門職者の活動を支援する新しい看護学体系の確立が急務となっている。

本専攻ではこのような社会や看護界の要請に応えるため、高度の判断能力と実践力を身につけた看護専門職者と看護系教員の養成、並びに新しい研究領域の開発に挑戦できる看護研究者の養成を目的としている。さらに、本専攻では、看護実践活動の理論的基盤となる新しい看護体系の研究開発を行い、看護に関する高度の教育研究機関としての役割を担うことを意図している。

なお、教育課程の編成について、毎年、カリキュラム・チェックリストで理事特別補佐（他学部・他研究科の教育担当教員）による教育カリキュラム（プログラム）の検証を受け、必要に応じ見直しを行っている。（資料3参照）

#### 博士前期課程の3つのポリシー

##### 【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)】

山形大学大学院及び大学院医学系研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、教育プログラム（看護学専攻・博士前期課程）では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「修士」の学位を授与する。

#### 1) 豊かな人間力

- (1) 看護高度専門職業人として基本的人権擁護と高い倫理意識を有している。
- (2) 豊かな学識と高い見識を備え、基礎理論に基づく疾病予防と生活支援方法を開発・整備できる能力を身に付けている。

#### 2) 深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野

- (1) 科学的根拠に基づき、看護の現象、実践技術およびシステム上の課題を明らかにし解決するために、看護の研究を推進できる能力を獲得している。
- (2) 現代社会が直面する看護・介護に関する諸課題についての教育・研究・実践活動を自律して展開できる能力を獲得している。
- (3) 自身に取り組むべき課題を基に、新たな研究領域にも挑戦できる能力を身に付けている。

#### 3) 多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力

- (1) 多様なサービス提供の場において、国内外を問わず学際的チームの協働・連携に寄与できる。

- (2) 幅広い視野をもち、多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力を有している。

#### 【教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学大学院及び大学院医学系研究科の教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に沿って、看護学専攻（博士前期課程）の学生が体系的かつ主体的に学習できるように研究課程を編成し、専門的知識・技能の深化を図るとともに知の総合的推進力や豊かな人間力を涵養する授業等を適切に組み合わせ教育を行う。また、成績評価基準に基づき厳格な評価を行う。

#### 1) 教育課程の編成・実施等

- (1) 科学的根拠に基づき、看護の現象、実践技術およびシステム上の課題を明らかにし、看護の研究を推進できる能力を育成するために、各教育・研究分野において特論・演習・特別看護研究と順序性をもって体系的に教育課程を編成する。
- (2) 幅広い知識と広い視野を備えた総合力を身につけるために、専攻領域の履修に加え、他領域の特論履修を定め、自由に選択できるカリキュラムを編成する。

#### 2) 教育方法

- (1) 看護高度専門職業人としての豊かな学識と高い見識を獲得するために、多面的で実践的な教育を展開する。
- (2) 学位にふさわしい、科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた修士の学位論文を作成できるための適切な助言・研究指導を行う。

#### 3) 教育評価

- (1) 学習成果の評価においては、不断の教育課程の点検・学生からの評価を組織的にを行い、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、厳格な評価を行う。
- (2) 論文審査では、論理的思考・説明能力の育成を考慮し、論文審査基準を公表し、審査については公開制で実施する。
- (3) 看護の現象への知識、看護研究の推進、看護・介護の理論・技術・システム・人材育成に対し、総合的・主体的・自律的に取り組む姿勢を評価する。

#### 【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

看護学専攻では社会や看護界の要請に応えるため、高度の判断能力と実践力及び高い倫理観を身につけた高度実践看護職者の養成、並びに教育研究者の養成を目的としている。

看護学専攻の求める学生像は以下のとおりである。

#### ◆求める学生像

- ・専攻したい看護領域における基礎知識を身につけている人

- ・高い問題意識と倫理観を備え、科学的根拠に基づき、主体的に多様で複雑な課題に取り組む意欲や探究心がある人
- ・人間性に優れ、広く学識の涵養に努めるとともに、教育・研究・看護実践活動にリーダーとして貢献する意志がある人

博士後期課程の3つのポリシー

**【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)】**

山形大学大学院及び大学院医学系研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、教育プログラム(看護学専攻・博士後期課程)では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「博士」の学位を授与する。

1. 科学的根拠に基づき、看護の現象、実践技術およびシステム上の課題を明らかにし解決するために、看護の研究を自立して推進できる高度な能力を獲得している。
2. 看護高度専門職業人として基本的人権擁護とより高度で専門的な倫理意識を有している。
3. 豊かな学識と高い見識を備え、基礎理論に基づく疾病予防と生活支援方法を開発・整備できる卓越した能力を身に付けている。
4. 現代社会が直面する看護・介護に関する諸課題についての教育・研究・実践活動を単独又はチームとして推進できる能力を獲得している。
5. 多様なサービス提供の場において、国内外を問わず学際的チームの協働・連携にリーダー的立場で寄与できる。
6. 自身が取り組むべき課題を基に、俯瞰的視野により新たな研究領域にも挑戦できる能力を身に付けている。

**【教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)】**

山形大学大学院及び大学院医学系研究科の教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に沿って、看護学専攻(博士後期課程)の学生が体系的かつ主体的に学習できるように研究課程を編成し、これに従って教育を行う。

1. より高度な幅広い知識と広い視野を備えた総合力を身に付けるために、専攻領域の特論・演習・特別看護研究に加え、フィールド実習を配置する。
2. 論文審査では、高度で専門的な論理的思考・説明能力の育成を考慮し、論文審査基準を公表し、審査については公開制で実施する。
3. 看護高度専門職業人としての豊かな学識と高い見識を獲得するために、専門的・他面的で実践的な教育を展開する。
4. 学位にふさわしい、科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた博士の学位論文を作成できるための適切な助言・研究指導を行う。

5. 学習成果の評価においては、不断の教育課程の点検・学生からの評価を組織的にを行い、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定する。
6. 看護の現象への知識、看護研究の推進、看護・介護の理論・技術・システム・人材育成に対し、総合的・主体的・自律的・実践的に取り組む姿勢を評価する。

#### 【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

看護学専攻は、研究マインドのある自立した看護高度専門職業人として、看護の質の向上を推進するため、高い倫理観を持ち、理論・技術開発からシステムづくり、人づくりまで統合的かつ学際的な視野で促進できる人材を育成し、我が国の来るべき超高齢社会に貢献することをめざしている。

看護学専攻の求める学生像は以下のとおりである。

##### ◆求める学生像

- ・高い問題意識を持って専攻したい領域における看護研究を推進できる基礎能力を有する人
- ・基本的人権擁護と高い倫理意識を兼ね備え、人々の自己決定を支援できる人
- ・人間性に優れ、豊かな学識の涵養に努めるとともに、研究マインドのある看護高度専門職業人として、教育・研究・看護実践活動に貢献する意志がある人

### 3.2 学生の受入れ

上記の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、一般入試、社会人入試、私費外国人留学生特別入試を行っている。直近の令和6年度入試の状況は表13、定員充足状況は表14のとおりである。看護系大学における近年の大学院設置数の増加に伴い、志願者数が減少した。特に博士前期課程における入学定員の充足が困難となり、令和5年度より入学定員を16名から10名に削減した。以降、入学定員を10～20%上回る入学者数を確保できている。また、本学では、助産師養成を学部教育にて実施してきたが、令和7年度学部教育課程より廃止し、大学院教育への移行を計画している。それによって、今後、安定した志願者確保につながる事が予想される。

表 13 直近 5 年度の入試状況（秋季入学を含む）

入学年度	専攻名	課程	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
令和 2 年度	看護学専攻	博士前期課程	16	9	9	9	9
		博士後期課程	3	2	2	2	2
令和 3 年度	看護学専攻	博士前期課程	16	12	12	12	12
		博士後期課程	3	5	5	4	4
令和 4 年度	看護学専攻	博士前期課程	16	14	14	14	14
		博士後期課程	3	2	2	2	2
令和 5 年度	看護学専攻	博士前期課程	10	11	11	11	11
		博士後期課程	3	4	4	3	3
令和 6 年度	看護学専攻	博士前期課程	10	13	13	12	12
		博士後期課程	3	4	4	3	3

表 14 直近 5 年の定員充足状況（各年度 5 月 1 日時点）

年度	専攻名	課程	収容定員 (人)	現員 (人)	定員充足率 (%)
令和 2 年度	看護学専攻	博士前期課程	32	40	125
		博士後期課程	9	17	189
令和 3 年度	看護学専攻	博士前期課程	32	29	91
		博士後期課程	9	20	222
令和 4 年度	看護学専攻	博士前期課程	32	34	106
		博士後期課程	9	18	200
令和 5 年度	看護学専攻	博士前期課程	26	36	138
		博士後期課程	9	15	167
令和 6 年度	看護学専攻	博士前期課程	20	36	180
		博士後期課程	9	15	167

### 3.3 教育の実施体制と内容

博士前期課程では、各大学院生は専任の教授もしくは准教授、講師から指導教員を決定し、指導教員のもとで学位論文（修士）作成のための特別研究を、指導教員及び専攻する教育・研究領域（主領域）の教員によるセミナー形式の演習及び講義形式の特論を必修で履修する。その他、主領域以外の他領域の特論を選択必修科目と規定し、幅広い知識と広い視野を備えた総合力を身につけられるよう教育課程を編成している。

加えて、看護学専攻博士前期課程では、社会や看護界の要請に応えるため、高度の判断

能力と実践力及び高い倫理観を身につけた高度実践看護師の教育課程を有している。今後さらに、助産師養成のための教育課程を設置の予定である。高度実践看護師においては、小児看護、老年看護、感染看護の専門看護師教育課程のほか、診療看護師及びプライマリケア看護に関わるナースプラクティショナーの資格取得が可能なナースプラクティショナー専攻教育課程があり、例年4～6名程度がこれらの教育課程を専攻している。いずれの教育課程においても、教育課程の認定機関が定める教育内容を含んだ科目の履修が必要であり、専門科目に該当する教育内容は、該当する主領域の特論及び演習に含まれている。また実習を必要とする教育内容は、各教育課程の指導者として適任と判断された看護専門職が勤務している医療機関等と大学が協定を結び、実習教育を行っている。上記の専門科目以外に、認定機関が定める共通科目（看護研究、看護理論、コンサルテーション論、フィジカルアセスメント、基礎医学等）がある。これらの科目は、科学的根拠に基づき、看護の現象、実践技術およびシステム上の課題を明らかにし解決するための、看護の研究の基盤となるため、高度実践看護職者の教育課程を専攻しない学生にも履修を勧めている。更に、他専攻が開講している臨床感染症学教育プログラムの科目を選択必修科目として修了要件に含め、感染症学に対する専門的知識が修得できる機会を提供している。本プログラムは令和6年より看護学専攻において履修が開始となり9名の学生が履修している。eラーニングでの受講が可能のため遠方の社会人学生が受講しやすいというメリットがある。

博士後期課程では、各大学院生は専任の教授から主指導教員1人と副指導教員2人を決定し、この指導教員グループの下で学位論文（博士）作成のための特別研究を、また教育・研究の主領域の教授によるセミナー形式の演習を必修で履修する。その他の講義科目については、様々な専門分野に属する専任教授から提供される高齢社会看護学特論を必修で履修するほか、より高度な幅広い知識と広い視野を備えた総合力を身に付けた看護高度専門職業人育成のための実習科目としてフィールド実習を履修している。フィールド実習は、専門領域に関する実践的課題解決について創造的な学術基盤を形成し、先駆的な取り組み・活動を研究・教育の視点で学び研究テーマを深めることを目的に、博士論文作成に取り組む前の年度に履修することとしている。また、ディプロマ・ポリシーに照らし、学位にふさわしい、科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた博士の学位論文を作成できるよう、研究開始に先立ち、博士論文研究計画中間発表会にて研究計画のプレゼンテーションを行う。発表会には、博士後期課程専任のすべての教授に加え、一定の条件を満たす准教授も参加し、博士論文の審査基準を満たすことを前提に、論文が精選されるような視点から、研究計画に関する質疑や助言・指導を行っている。

看護学専攻では、博士前期・後期課程共に、在職の社会人を積極的に受け入れるため、昼夜・土日の授業開講ならびに長期履修制度を施行し、入学後も実践活動を継続できる環境を確保している。学習成果の評価は、不断の教育課程の点検・学生からのアンケート等による評価も含め、到達度及び成績評価基準と方法をシラバス上に示し、評価を行っている。論文審査では、論理的思考・説明能力の育成を考慮している。論文審査基準はシラバス上に公表



し、審査は公開制で実施する。

生活支援等の体制として、各学年にアドバイザー教員を配置し、指導教員以外の相談・支援の窓口を設置している。また、学部から大学院に進学した学生には、学部学生同様、求人情報を提供するなど進路の関する支援体制をとっている。更に、在学生全員に、例年、教育や学習環境に関するアンケート調査を実施し、改善の必要な点は改善を図るように努めている。経済的支援として、大学院進学支援金制度がある。学部卒業後に博士前期課程に進学して修了後、山形大学医学部附属病院に就職を予定している者、また附属病院在職中の看護師で博士前期課程に進学するものが対象で、学部からの進学者は 2 名、附属病院看護師は 14 名（令和 2 年の制度開始から令和 6 年 4 月時点まで）が本制度を活用している。

### 3.4 教育の成果

過去 5 年の標準修業年限修了率は表 15・16、留年率、休学率、退学率、学位授与数については表 17・18 のとおりとなっている。博士前期課程は半数以上が、博士後期課程はほぼ全員が社会人学生のため、長期履修制度を活用しながら計画的な履修と研究活動を行い修了できるよう指導体制をとっている。仕事との両立が困難、健康上の問題、出産・育児等を理由に休学や退学する学生も一定数確認されるが、9 割以上の学生が長期履修を含めた修了年限内に修了できている。

表 15 修了率の推移（博士前期課程）

修了率	2019	2020	2021	2022	2023
標準修業年限内	43.75% (7/16)	69.23% (9/13)	33.33% (3/9)	58.33% (7/12)	28.57% (4/14)
標準修業年限× 1.5 年内	68.42% (13/19)	75% (12/16)	76.92% (10/13)	77.78% (7/9)	83.33% (10/12)

※長期履修制度を利用している学生について、長期履修の設定年限を標準修業年限内として算入しない。

表 16 修了率の推移（博士後期課程）

修了率	2019	2020	2021	2022	2023
標準修業年限内	0% (0/2)	0% (0/5)	25% (1/4)	0% (0/2)	25% (1/4)
標準修業年限× 1.5 年内	33.33% (1/3)	0% (0/2)	0% (0/5)	75% (3/4)	0% (0/2)

※長期履修制度を利用している学生について、長期履修の設定年限を標準修業年限内として算入しない。

表 17 留年率、休学率、退学率、学位授与状况（博士前期课程）

	2019	2020	2021	2022	2023
留年率	0% (0/45)	2.5% (1/40)	0% (0/29)	2.94% (1/34)	0% (0/36)
休学率	11.11% (5/45)	7.5% (3/40)	6.9% (2/29)	5.88% (2/34)	8.33% (3/36)
退学率	4.44% (2/45)	0% (0/40)	0% (0/29)	2.94% (1/34)	2.78% (1/36)
学位授与数	13	22	8	11	11

表 18 留年率、休学率、退学率、学位授与状况（博士后期课程）

	2019	2020	2021	2022	2023
留年率	0% (0/18)	0% (0/17)	0% (0/20)	0% (0/18)	0% (1/15)
休学率	16.67% (3/18)	5.88% (1/17)	20% (4/20)	33.3% (6/18)	13.33% (2/15)
退学率	0% (0/18)	0% (0/17)	0% (0/20)	5.56% (1/18)	6.67% (1/15)
学位授与数	2	2	4	5	1

過去5年の修了生の学位論文に関係した受賞は以下の通りである。

2020年度

- ・第20回山形大学医学会学術賞銅賞（博士後期課程修了）

2021年度

- ・日本看護研究学会奨励賞（2020年度論文）（博士前期・後期課程修了）
- ・第16回日本助産学会学術賞（博士前期課程修了）
- ・第21回山形大学医学会学術賞銅賞（博士前期・後期課程修了）

2022年度

- ・第8回日本家族看護学会研究奨励賞（博士前期・後期課程修了）
- ・日本看護科学学会第42回学術集会優秀演題ポスター発表賞（博士後期課程修了）
- ・第38回日本小児臨床アレルギー学会学術大会最優秀演題賞（博士前期・後期課程修了）
- ・第60回日本癌治療学会学術大会 Medical Staff Award 受賞（博士前期・後期課程修了）

2023年度

- ・第70回小児保健学会若手奨励賞（博士後期課程修了）
- ・第23回山形大学医学会学術賞銅賞（博士前期課程修了）

### 3.5 修了生の進路・研究・社会貢献

看護学専攻は、博士前期・後期課程共に、在職のまま入学する学生が大部分を占めるため、修了後の進路に大きな変化はない。過去5年間の修了者（前期課程65名、後期課程14名）の勤務状況（進学含む）は、大学准教授2名、大学講師10名、大学助教6名、病院副看護部長2名、病院看護師長2名、病院副看護師長3名、病院看護師33名、保健師3名、助産師5名、博士後期課程が1名であった。また専門看護師資格取得者は2名、診療看護師資格取得者は7名で、所属施設において専門領域のリーダーとして活躍している。

表 19 修了者の進路

	2019	2020	2021	2022	2023	計
大学教員：教授	0	0	0	0	0	0
大学教員：准教授	0	0	0	2	0	2
大学教員：講師	2	2	2	4	0	10
大学教員：助教	1	1	2	1	1	6
看護学校教員	0	0	0	0	0	0
副院長・看護部長	0	0	0	0	0	0
副看護部長	0	1	0	1	0	2
師長	0	1	0	0	1	2
副師長・主任	0	2	1	0	0	3
看護師	4	9	5	6	9	33
保健師	0	1	0	1	1	3
助産師	2	1	1	1	0	5
養護教諭	0	0	0	0	0	0
博士課程学生	0	1	0	0	0	1
看護協会	0	0	0	0	0	0
不明	6	5	1	0	0	12

参考まで、高度実践看護師の資格が認定された看護師は、小児看護専門看護師 16 名、老人看護専門看護師 3 名、精神看護専門看護師 1 名、在宅看護専門看護師 6 名、診療看護師 9 名である（各教育課程開設より令和 6 年 4 月までの実績）。

学位論文に関係した論文の掲載状況は、以下の通りである。

表 20 学位論文に関連した論文の掲載状況

	2019	2020	2021	2022	2023
博士前期課程	38.5% (5/13)	63.6% (14/22)	50.0% (4/8)	36.4% (4/11)	27.3% (3/11)
博士後期課程	50.0% (1/2)	100.0% (2/2)	175.0% (7/4)	80.0% (4/5)	100.0% (1/1)

※修了年度における学位論文に関連する掲載論文数を修了者数で割った

※※掲載論文数は 2024 年 4 月までに指導教員より報告されたもののみ

---

**【参考資料】**

資料1：令和6年度山形大学大学院医学系研究科先進的医科学専攻・医学専攻学生便覧

資料2：令和6年度山形大学大学院医学系研究科看護学専攻（博士課程）便覧

資料3：令和7年度教育プログラム検証報告及びカリキュラム・チェックリスト

資料4：山形大学大学院医学系研究科・医学部・医学部附属病院―概要―（Outline）

資料5：臨床感染症学教育プログラム学生案内用